

23日 金曜

1ヨハネ

3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようにになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。

3:3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

3:4 罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。

3:5 あなたがたが知っているとおおり、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。

3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。

3:7 幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。

3:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。



3:10 このことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。

救われた者は、神によって生まれたのであって神の子どもです。救われる前と全く別の存在になったのです。また神の子どもというのですから、その莫大な資産を受け継ぐことができます。何よりも親である神に似てゆくものでもあります。

ですから神様のお心にかなう生き方をすることが、喜びであり、自己矛盾がないのです。悪魔に「惑わされ」ることなく、神の子としての生き方を選び取りましょう。それこそが喜びの道でありますから、その経験を重ねてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

